

チャイルドドクタージャパン
日本NGO連携無償資金協力 中間報告書

2. 事業の概要と成果	
(1) 上位目標	ナイロビ州ランガタ県内の都市型スラム住民の保健衛生状況が改善される。
(2) 事業内容	<p>1 新規CU立ち上げ サウスランズ、マニャッタ・マトペニの2箇所にて新規コミュニティ単位(CU)を立ち上げた。</p> <p><u>研修</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ● コミュニティヘルス委員会 (CHC) 初期研修 (5日間、サウスランズ15名、マニャッタ・マトペニ15名、計30名) ● コミュニティヘルスワーカー (CHW) 初期研修 第一期：教室内研修5日間、サイト訪問1日間、第二期：世帯調査4-6日間 (サウスランズ50名、マニャッタ・マトペニ30名、計80名) <p>2.2 CU活動の支援</p> <p>2.2.1 シティコットン/ウペンド (CC/UP) における活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ● コミュニティ意見交換会 (ダイアログデイ)：計5回 ● アクションデイ：計5回 ● 世帯調査：1回 ● アウトリーチ活動：2回 ● 母子保健週間活動 (予防接種、栄養指導など) <p>2.2.2 サウスランズにおける活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ● コミュニティ意見交換会 (ダイアログデイ)：計2回 ● アクションデイ：1回 ● 世帯調査：1回 ● アウトリーチ活動：1回 <p>2.2.3 マニャッタ・マトペニにおける活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ● コミュニティ意見交換会 (ダイアログデイ)：マトペニ、マニャッタ、それぞれで2回、計4回 ● アクションデイ：それぞれで2回、計4回 ● 世帯調査：1回 ● アウトリーチ活動：それぞれ1回、計2回 <p>2.3 保健医療施設のサービス向上 上半期では、対象コミュニティの管轄保健医療施設 (ランガタ保健センター、ナイロビウエスト刑務所保健所 NWPD、カレン保健センター、チャイルドドクタークリニック) が協力して、計5回のアウトリーチ活動を実施することができた。また、下半期に向けて、それぞれの施設のニーズを特定した。</p> <p>2.4 県公衆衛生局および保健施設の調整能力強化</p>

	対象コミュニティに対する県公衆衛生局およびコミュニティヘルスエクステンションワーカー (CHEW) の指導支援の活動を、期間を通して継続的に支援することができた。
(3) 達成された効果	<p>1. 新規コミュニティ単位が2箇所、設立された。 サウスランズ：CHC 15名、CHW 50名が初期研修を終了 マニャッタ・マトペニ：CHC 15名、CHW 30名が初期研修を終了 研修において、CHCとCHWの役割および基礎的知識が身につけられ、活動を十分に実施できる状態となった。</p> <p>2. 対象3コミュニティにおいて、定例活動が予定通りに実施された。 <u>自立発展性の向上</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ● マニャッタにおいては、コミュニティが自発的に自己資金によりトイレの建設。 ● CC/UPにおいては、清掃活動の道具やコミュニティ集会をするための資金調達活動を実施。 ● CC/UPのCUをコミュニティ団体(CBO)として、政府に登録し、銀行口座を開設した。 <p><u>保健指標の改善</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 新規コミュニティ2箇所に関しては、世帯調査を実施することにより、基礎データが得られた。 ● 第1期よりの対象であったCC/UPに関しては、予防接種、水衛生、栄養、教育などの指標に関しては昨年実施した基礎調査データと比較して、改善が見られたものの、トイレへのアクセス、家族計画などの分野で悪化が見られ、課題となった。 <p>3. 対象保健施設が定期的アウトリーチ活動を実施することにより、コミュニティ住民が保健施設の存在を身近に感じ、信頼感が生じ、コミュニティと施設の連携が強化された。特にNWPDにおいて、昨年に比べて、CC/UPから妊婦健診や予防接種を受診する住民数の増加が見られた。</p> <p>4. 県公衆衛生局やCHEWが対象コミュニティに対して、定期的に支援指導を行い、必要なコミュニティ保健情報が定期的に提出された。</p>
(4) 今後の見通し	<p>活動に若干の遅れがあるものの、大きな計画変更を要するものではない。今後、活動計画に沿って、活動を進めていく。</p> <p>予算執行状況に関しても、新しいコミュニティで活動を開始するに当たり、最初から必需品を調達するよりも、コミュニティ側からニーズが上がるのを待っているために、意図的に調達を遅延させている部分があり、下半期で残りの調達を実施することは、十分に可能である。</p> <p><u>下半期の焦点</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ● CHWの必需品の調達 ● 特定分野の研修 ● 月例活動の支援 ● ゴミ収集施設の改善 ● IEC教材の開発・調達

	<ul style="list-style-type: none">• モニタリング、スーパービジョンの強化• 県公衆衛生局や対象医療施設の調整目的の会議・活動の支援
--	--